

**大阪エンタテインメントデザイン専門学校**

**学校自己評価報告書**

(平成30年度)

基準日＝平成31年3月31日

令和元年7月

**学校法人上田学園**

**大阪エンタテインメントデザイン専門学校**

## 平成30年度版 大阪エンタテインメントデザイン専門学校 学校自己評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、毎月、部会を行い、自己点検項目につき、不備な点を拾い出し、その改善に努めてきました。平成25年度よりは教育課程編成委員会、学校関係者委員会の設置を行いカリキュラム組成、自己点検等に外部関係者の意見を積極的に取り込むよう努めております。一方、平成21年度には、上田学園中長期経営計画を策定し、平成25年度では中間総括を行なうなど、逐次レビューを図ると同時に、その中長期経営計画に、自己評価制度部会の活動が反映していくような体制を築いております。

その中長期計画の一つとして、大阪総合デザイン専門学校と大阪エンタテインメントデザイン専門学校が2019年4月1日より、統合することとなりました。

これにより新しい「大阪総合デザイン専門学校」として、大阪エンタテインメントデザイン専門学校にあった2学科を新たに大阪総合デザイン専門学校内に新設することになります。

本背景には、『第4次産業革命』の進展と国際競争の激化に伴い、産業構造が急速に転換する中、優れた専門技能をもって新たな価値を創造することができる専門職業人材の育成が急務である」という国の施策により、新たな学校群として文部科学省が2019年度より施行する「専門職大学」制度の新設が挙げられます。

弊学園といたしましては、この職業教育の更なる実践的高度化を必要とする社会構造の変化を踏まえ、2022年4月をめどに新「専門職大学」開学を目指し、両校を統合するという結論に至りました。

今後は新「専門職大学」開学に向け、自己点検制度に対する学園の取り組みを、同校も一般公開することで、学園が更に取り組むべき点を内外に問う形を図り、社会的責任を果たしていきたいと考えております。

令和元年7月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也

大阪エンタテインメントデザイン専門学校 学校長 越田英喜

平成30年度自己点検制度推進部会

大阪エンタテインメントデザイン専門学校 事務統括

教務部長

学生部長

大阪総合デザイン専門学校

事務統括

教務部長

学生部長

上田安子服飾専門学校

事務統括

教務部長

学生部長

学校法人 上田学園

メディアセンター所長

本部 総務・経理部長

## **基準1 教育理念・目的・育成人材像等**

### **1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。**

学園として、創立者上田安子の理念を継承しています。当校の教育理念は「人と人の心をつなぐ魅力あるデザインは、魅力ある表現者から生まれる」をモットーとして、創造力豊かな、そして人々に信頼され愛され魅力的な人格形成をめざすことを教育の目的としています。

この理念に関しては継承する方針であるが、教育方針は育成すべき人材像を念頭に、時代に即して見直しを行う。

これらの教育理念は、全教職員に学内サイトにアップロードして周知するとともに、学外への周知徹底は学園本部の広報用サイトを利用していく。

### **1-2 学校の特色は何か**

「学ぶ」「研究する」「発表する」の三つの機能を備え、連携することで「プロとしての基本技能を確実に身につけることができる」まさに「劇場型」職業教育を実施しています。

また学園としては姉妹校として、75年の歴史を持つファッション系専門学校である上田安子服飾専門学校と平成26年4月に開校50周年を迎えた大阪総合デザイン専門学校があり、上田学園は三校体制のエンタテインメント、ファッション、デザインの総合学園として知られていました。今後は新専門職大学の開学に向け、この教育理念をより高度に発展させていきたいと考えています。

### **1-3 学校の将来構想を抱いているか**

先に述べた「学ぶ」「研究する」「発表する」の三つの機能を備えた「劇場型」職業教育を実践する日本初の新しい試みの専門学校として、高度な実践型人材教育システムを構築していくことを主目的としています。

また、学園としては建学の理念を基に、伝統と時流のバランスを見極め、教育資源の多角化に挑戦しています。財務計画、校舎・設備計画に沿った各校事業支援、人事評価制度を含めた人事政策、社会的責任の実現（個人情報・自己点検部会、衛生委員会等）の方針を立て、学園改革を進めています。

## **基準2 学校運営**

### **2-1 運営方針は定められているか**

学校運営方針に関し、学園にて上田学園中長期経営計画を策定し、これに基づき本校として在校生数、退学率、就職率、コスト削減などの項目を業務目標として定めています。これらは、人事評価の業務目標策定時に教職員に徹底しています。学園の改革に関しては、常務理事会、経営定例会議、本部会議で随時検討を行っています。

### **2-2 事業計画は定められているか。**

事業計画については1-3項目の記載通り、上田学園中長期経営計画を策定し、年度ごとの計画を決定し、現在進行中です。

### **2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか。**

運営組織に関しては学園全体の組織図において明示しています。教務部、学生部においては、業務の分担が明確化されており、それにもとづいて、効率的な業務推進がなされています。校長が教務部、学生部を掌握して、各学校の経営を教育的観点、財務的観点の両方から運営を行っています。

### **2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。**

人事評価制度を導入しており、現場での目標設定と管理とその人事評価は制度として根付いた。今後、自己管理的な制度の趣旨について理解の浸透をすすめ、教職員側からの積極的な運用を図ることとしている。また、学園・学校目標を現場に浸透させ、現場に近い、各学科の目標、及び学科長の評価に重点を移していくため、学科長により各被考課者の目標設定と評価にこれまで以上に関与する。また、生活給保障の色彩から、能力・成果主義の度合いを強めて、教職員のインセンティブを高めている。

### **2-5 意思決定システムは確立されているか。**

最終決定機関の理事会・評議会のほかに、常務理事会を設けて、学園全体の組織・人事・中長期経営計画等の方針案を検討するほか、日常的な事務については決定権を理事会から委任されている。常務理事会は両校長を含め実務的な理事により構成されている。また、各校の個别人事・予算・行事等の決定事項については、校長が決定するが、重要事項については経営定例会議で、両校の責任者の意見を聞いて、理事長が決定することとしている。

経理については経営会議決議事項の対象であるなしに係らず、5万円以上の案件に関しては支払稟議書でもって回章捺印し、理事長決済とし、理事長、各校長ほか各部門責任者の共通認識を得ている。

平成27年11月以降、稟議システム(楽々精算)を導入し、スムーズな稟議決裁を行っており、透明性が高まることで、内部統制面でも有効に働いているとみている。

## **2-6 コンプライアンス体制が整備されているか**

教育機関として、法令遵守は当然の責務であり、業界や地域社会等の関わりにおいても、些かも法令に抵触することの無いよう学校運営に心がけている。事あるごと、学園本部を窓口に関係機関に助言を求めながら進めてきたが、今後はコンプライアンスのマニュアル化等、体制の整備が必要である。

## **2-7 情報公開が適切になされているか**

「学校法人上田学園情報公開に関する規定」を定め、(1)財務諸表に関する情報(2)自己点検・評価の結果の公表(3)シラバス他教育活動にかかわる情報(4)その他、法令により義務付けられ他情報、を学園のホームページ上で公開している。

## **2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか**

業務管理システムとしては、入学希望時点から卒業までの(募集・教務・成績・学費・就職)それぞれのシステムがあり、連携して効率的な運用を行っている。その他、勤務・給与・財務・資産の各管理システムでも業務の効率化が図られている。

情報システムを管理するサーバーームでは、各部署にファイルサーバーを設置しデータの保管・共有化を図り、定期的なバックアップにより保守している。

情報共有については、ローカルネットワーク内ではファイルサーバーを使用し、ローカルのエリアを超える場合にはオンラインアプリケーション(GoogleApps)を利用している。

## **情報通信教育推進室**

情報通信教育推進室は、「ICT(情報通信技術)を活用した教育の高度化」を目的に、平成20年度に設立された。設立以来、eラーニングの試験導入、シラバス等カリキュラムバンクである「上田学園リポジトリ」サイトの構築・運用、クラウド活用による「動画eラーニング」サイトの構築・運用等、特にウェブ活用による教育の高度化、またウェブ関連で、学園公式サイトの充実、情報公開等の問題に取り組んできた。平成26年度は、大阪エンタテインメントデザイン専門学校の開校に伴って、シラバス等カリキュラムバンクとして、また在校生・卒業生用求人情報データベースシステムとしての機能も持ち、日常的に利用されている「上田学園リポジトリ」を部分改修し、コンテンツ表示システムをiOS系端末(iPhone、iPad等)でも閲覧出来るようにFLASHからHTML5に変更し、利用者に対してより高い利便性を実現させた。それに伴い、閲覧システムの変更により必要となったコンテンツ総入れ替え作業を行った(現在も進行中)。また、学園3校のサイトへのポータル(入り口)として、また学園の情報公開用ツールとして重要な働きを持つ「上田学園サイト」

(www.uedagakuen.ac.jp)を年度初めに8年ぶりに全面リニューアルし、強化した情報アップ機能をベースに学園3校のトピックを定期的に発信して、学園全体の広報ツールとしての役割を高めている。

### 基準3 教育活動

#### 3-1 各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか

各学科のカリキュラムを策定するにあたり、本学教育理念の下、各学科の特徴・教育目標・育人材像を達成するため、変化の激しい業界の動向を研究し、学生のニーズと業界の求める人材を調査し、常に見直しを行なっている。

カリキュラムの中から各科目のシラバスを作成し、在校生には入学時、進級ガイダンス時に配布し、事前説明を通して学習意欲の向上と、年間授業目標の達成を目指すための指針としている。また、web上のOED機関リポジトリにおいて公開している。

#### 3-2 各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

各学科のカリキュラムデザインに際しては、各々の業界、関連分野の動向やニーズを把握し、求められる人材育成像を構成する知識、技術、社会人としての教養を教育目標の中に取り入れている。

平成26年度より授業アンケートを実施し、科目ごとに業界のニーズに対応できるように授業内容を再考している。また、キャリア教育についてはとくに科目を設定し、入学時から卒業までの過程において社会性を身に着ける教育を行なっている。

#### 3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか

各学科のカリキュラムは、基礎知識を重視して、その上に高い技術を身につける必修科目と、学生の将来目標に合わせた選択科目から構成されている。

各科目のつながりを重視し、連携しあって教育目標を達成することが重要であると考えている。

#### 3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

各学科の教育目標、人材育成像を基幹にした上で補完構造を持ったカリキュラムに基づいて具体化した科目を設定している。各科目間の連携を保てるよう適正な位置付けをしている。

### **3-5 授業評価の実施体制はあるか**

平成 26 年の開学時より、全クラス全科目において前期末・学年末時に授業アンケートを行なっている。授業内容、カリキュラムの改善に向けた資料の収集を行い、教育体制、カリキュラムの向上を目指すための授業評価のひとつとした。質問項目はマークシートによる集合方式をとり、教員の授業方法・対応、教育効果、学生の授業姿勢などの自己評価と、教育環境を含めた総合評価にわたる 15 項目とし、その結果は、レーダーチャートで見ると全項目 5 点ポイント中 4 ポイント前後であった。記述項目をデータ化し、担当教員の今後の授業を進めていく上での指針となった。

### **3-6 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか**

教員採用にあっては、主に推薦方式をとり、履歴書・職務経歴書などの書類を精査し、教育目標に見合った授業を行なうことができる能力を備えているかを判断し採用している。

専任・常勤の教員に対しては、内外の研修に参加することを促しており、教育力の向上に努めている。

### **3-7 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか**

成績評価の方法は評価基準を明示しており、進級、卒業判定の方法は進級・卒業判定基準に明示されている。入学・進級ガイダンスにおいて、学修ガイドに明示された内容を担任教員が説明し、在學生に周知している。教科の各単位数は、学修ガイドに明示されている。

### **3-8 資格取得の指導体制はあるか**

本学の学科の性質上対応する資格試験は少ないが、「色彩検定」「CG 検定」などはカリキュラムに取り込み、取得の向上を目指している。

### **3-9 地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか**

本校は、南港にあり、ATC、インテックス大阪が近く、地域や住之江区のイベントに積極的に参加するよう勧めている。また、本校の文化祭である「エンタメ祭」では、一般の方々にも学校を開放し、作品展示や芝居、歌、ダンスなどの発表会を行ない地域住民との交流も進めている。

また、キャラクターコンテンツ学科では、インテックス大阪で開催される同人イベントなどにも積極的に参加し、各々の作品の展示即売などを行っている。

また、本校の特徴として学生作品を常設展示できるスペースを持ち、学生の学習意欲向上に役立っている。

## **基準4 教育成果**

### **4-1 就職率（卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか**

キャラクターコンテンツ学科では「キャリアデザイン」「ポートフォリオ制作」をカリキュラムに組み込み、就職活動における指導を行い、3期目の卒業生を輩出した。

一方、タレント学科では、芸能プロダクション・事務所のオーディションを学内で開催し、学生の希望に沿った進路を選べるようにフォローしております。今期4期生が卒業しましたが、声優事務所や養成所への合格率は100%となっています。

### **4-2 資格取得率の向上が図られているか**

本校は2014年開学以来五年が過ぎ、キャラクターコンテンツ学科では三度目の卒業生を送り出すことができた。これまでの実績を元に、今後は「色彩検定」などの検定試験の取得率向上をめざすことにより実践的なカリキュラムの充実に取り組んでいる。

### **4-3 退学率の低減が図られているか**

退学率を10パーセント以下に抑えるべく、学生一人ひとりに対応したカウンセリングを実施し、きめ細かいフォローをしている。学生の出席状況は教務部で管理し、担任教員との連携によって退学の可能性のある学生を早期に把握し、担任教員が面談をする。また、健康上や精神面などに問題を抱える長期欠席者に対しては、心理カウンセラーが直接面談する機会を設けている。

金銭面でやむを得ず退学する学生もあることから、各種の奨学金に関する情報を学習ガイドに記載し対応している。

### **4-4 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか**

本校ではキャラクターコンテンツ学科において三度目の卒業生を送り出した。今後はより積極的に産学連携授業の実施など、外部評価の機会を増やすとともに、卒業生の組織化などの仕組みを構築する予定である。

なお、基準3, 4に関し、学科毎の課題・改善点については、別添にて明記しております。

## **基準5 学生支援**

### **5-1 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか**

就職・進学指導はキャリアサポートセンターが各学科長との連携により実施している。指導は計画されたスケジュールに沿って1年次より卒業まで進められる。一方、企業訪問等による求人企業開拓も姉妹校である大阪総合デザイン専門学校と共同で年間を通して実施している。

### **5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか**

学生生活全般にわたる種々の問題についての相談は、担任教員もしくは事務局が対応している。また、心理的な問題に関しては、必要に応じ教務の担当者(心理カウンセラー)がカウンセリングで対応している。また、留学生に対しては、学生部が、ビザの発行などの事務支援を行うとともに、生活面や心のケアなども行っている。

### **5-3 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか**

経済的支援が必要な在學生に対しては、日本学生支援機構、日本政策金融公庫（保証料全額学園負担）などの公的制度を活用するほか、本校独自制度を設けている。

入学前に実施している特待生試験制度、入学後成績上位者に適用される成績優秀者特待生制度、自宅外の通学者に適用される自宅外通学奨学生制度、上田学園兄弟姉妹入学制度のほか、学費分納・延納制度、学費ローンの利子分を支給する提携教育ローンなどがある。各種奨学金については学生部が窓口となり、入学後に説明会も実施し、災害時など緊急の際は、ただちに在學生に周知し、公的資金を活用する。最近は、経済的理由による奨学金活用者が増えてきていることから、経済面での支援策が今後も望まれると考えている。

### **5-4 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか**

学校保健法に従い、毎年度5月（6月）に定期健康診断を実施している。診断は業者委託し、結果は在學生に配付する。学校医は学校の最寄りであり、健康相談等を出来る体制にある。在學生からの健康上の相談や、学内での発病、事故などの際は担当の教職員が適切な対応を行えるよう連絡、連携体制を整備している。

また、AEDを設置していて、教職員への使用方法の研修も実施している。

\* AED（自動体外式除細動器）とは人体に取り付け、電気ショックによって心臓の働きを回復させるための救命装置です。平成17年より一般の人でも使用が認められています。

### **5-5 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか**

課外活動としては、キャラクターコンテンツ学科では、各種イベントに出展し、学生の制作した作品を展示することで来場者や企業の担当者の評価を直接感じる機会を設けている。学内でも本校のミュージアムで作品展示を行い、学生や一般の方々に鑑賞してもらう機会を設けている。

また、8月には東京の出版社にマンガ作品の「持ち込みツアー」を行っている。

タレント学科では大阪市・住之江区などの官が主催の各種イベントに参加し、来場者の評価を得ることでモチベーションの向上に役立っている。

また、学外での展覧会の開催など課外活動に関し会場費など補助している。

#### **5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか**

学生寮は業務委託している業者が運営している指定寮が男女共複数あり、希望者が利用している。各学生寮の運営状況等については、業者より定期的に報告があり、把握している。何らかの問題があった場合は、業者または在学生からの申出・相談により解決に向けての対策を協議する。また、入学生向けにパンフレットを配布し、情報の公開を実施している。

#### **5-7 保護者と適切に連携しているか**

学年当初に学修ガイド及びシラバス等を保護者宛に送付し、年間の教育計画・目標を報告している。前期末・学年末の成績評価を保護者宛に送付し、学生の修学状況(出席など)において必要がある場合は、教務部と連携し担任教員が保護者に連絡を取っている。

また、場合によっては3者面談などを行う場合がある。

#### **5-8 卒業生への支援体制はあるか**

卒業後は同窓会会員となり、同窓会の運営の基に同窓会会員とし卒業後も就職活動などの支援を受けることができる。同窓会事務局は学内に設置され、卒業生の交流を図る。

#### **5-9 留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか**

上田学園中長期戦略である学園における留学生総数増加を目標としている。日本語学校との共同募集活動戦略や、海外提携日本語学習施設との留学生指定校提携等を通じた活動に本格的に取り組んでいる。本校は場所柄大阪入国管理局にも近く、また関西の海外窓口である関西国際空港の沿線にもあたり、主にアジアを中心とした国際交流事業に積極的に取り組む予定である。また2年次に行く海外研修制度や英語教育のカリキュラム必須化など、在校生にも国際感覚を身に着けるべく、教育・指導しています。また留学生向けの学費減免制度もあり、留学生のサポートを充実させている。

外国人留学生の選考、受入れ、在籍管理、ビザ取得サポート等の業務について体系化されている専門学校が少ないなか、当学園では国際交流課による学園内留学生の一元管理体制が整った外国人留学生教育にも強い学園として、他校との差別化が図られている。

## **基準6 教育環境**

### **6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか**

教育に関連する施設・設備教育関連備品はカリキュラムや学生数などの必要性に応じて整備している。

普通教室の設備は無線 LAN、プロジェクタ、ホワイトボードを整備している。コンピュータ教室は、新たに一教室を増設し三つのコンピュータ教室に68台のコンピュータと25台の液晶ペンタブレット、ペンタブレット43台と20台のスキャナ、有線 LAN、プロジェクタを設置している。そのほか録音室、ダンススタジオ、演技教室、作品展示室、多目的ホールなどがある。また、学内では無線 LAN を整備している。

### **6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか**

学外学習として、タレント学科ではイベントの開催や姉妹校のイベント出演などを行い、キャラクターコンテンツ学科では、インテックス大阪で開催されるイベント参加、作品展示会の開催を行なっている。また、産学協同授業等を積極的に進めていく計画である。海外研修については、キャラクターコンテンツ学科においてフランスオートグラフ大学とのワークショップの研修を行なった。

### **6-3 防災に対する体制は整備されているか**

安全確保方策、安全指導體制、災害時の役割分担、情報連絡体制、災害時の行動マニュアル等は各校者の消防計画書に基づき整備されている。消防施設・設備の整備については、外観点検と総合点検を各年1回実施。またコスモスクエア開発協議会に参加し、協議会内で災害行動マニュアルを作成。大阪市や大阪府とも連携し、有事に対応できるよう体制を整えている。また地震等による避難訓練についても、昨年度はじめて実施しました。

## **基準7 学生の募集と受け入れ**

### **7-1 学生募集活動は、適正に行われているか**

学生募集にかかる広報活動は2019年度募集停止としており本活動はおこなっていない。

### **7-2 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか**

学生募集にかかる広報活動は2019年度募集停止としており本活動はおこなっていない。

### **7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか**

学生募集にかかる広報活動は2019年度募集停止としており本活動はおこなっていない。

#### 7-4 学納金は妥当なものとなっているか

学納金については参考にするのは大阪府専修学校各種連合会の専門学校学費データ、同分野校の学費の状況等である。これによれば、本校の学費等は概ね平均であることから、現状においては妥当性があると判断している。

### 基準 8 財務

#### 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

運転資金や本校開設運営資金等で必要に応じて銀行借入を行った。今後とも中長期経営計画に基づき、財務基盤の安定を図りつつ、施設設備への充実を図ることとしている。

#### 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

毎年、年度後半から当年度の補正予算、及び、翌年度の予算策定にかかっている。当年度の補正予算は人件費が固まり、翌年度の募集活動がピークを終えた段階で見直しを始めており、経営会議及び常務理事会で現状を報告している。予算を超える場合には便宜的に、支払稟議でもって各校長・理事長承認を得ている。

翌年度の予算は予算会議を開始し、3月の予算理事会までに収入の範囲で経費を決定していく。この過程で、事業計画の策定、中長期計画のレビューをも合わせて行なっている。予算・収支計画は教育環境の充実の為の投資を優先しているが、事業収支がマイナスにならないよう策定している。基本金組入れによっては、事業収支差額がマイナスになることもあるので、事業収支差額を尺度に使用している。予算・収支計画手続きは有効かつ妥当と考える。

#### 8-3 財務について会計監査が適正におこなわれているか。

会計監査契約を交わしている会計士からは、日常の会計上のアドバイスを受けそれに沿うよう業務を見直している。また、公認会計士1名及び企業会計の経験豊富な1名の計2名が、会計監査を含め学園経営の監査を見ている。また、他に、長年学園会計の監査に立ち合った会計士が理事となっており経営に関与している。

#### 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか。

他の専門学校に先駆けて、平成18年度より財務情報を学園ホームページに掲載して、一般公開している。

## 基準9 法令等の遵守

### 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

学校設置基準に係る法令等の遵守については、本部総務部が窓口になって大阪府、大阪市、その他関係機関に逐次相談の上、逸脱しないように図っている。

人権問題、教職員の労務問題には衛生委員会を窓口に、個人情報保護の問題には個人情報保護推進部会が窓口になり、定期的に会合を重ね、問題点があれば改善に努めている。夏休みの教職員セミナーでその周知を行い、教職員の法令等の遵守意識を高めるよう行っている。

### 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

個人情報保護推進部会を設置して、個人情報の保護に努めている。各部署には機密保護管理責任者を選任し、機密情報の管理・監督・指導を徹底している。

具体的にはプライバシーポリシー・就業規則・機密保護管理規定を策定して運用している。

また、各学校のホームページには個人情報の取り扱い・個人情報保護指針を掲載している。

平成28年度からのマイナンバー制度の導入により、業者システムを活用してマイナンバーの漏洩防止に努めている。

### 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

今後校長、事務統括、部長、学科長による会議において自己点検を進め、問題点があり次第、その対処について協議し対処する。

### 9-4 自己点検・自己評価結果の公開をしているか。

平成26年度より学校自己評価報告書をホームページで公開している。

## 基準10 社会貢献

### 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

先にも述べたが、ATCの「こどもフェスタ」等、官のイベントにも積極的に参加。本校の文化祭と日程を合わせることで一般の方々にも学校を開放し、作品展示や芝居、歌、ダンスなどの発表会を行ない地域住民との交流を行なった。また、大阪総合漫画芸術ミュージアムを開館し、事前予約の方に貴重な作品等を観覧いただける体制を整えている。学園としては2009年兵庫県西宮市に学園創立者である上田安子記念館を設立し、地域住民を招いたファッションショーや音楽コンサートなどの文化活動を行っている。

#### 上田安子記念館

創立者、上田安子学園長の服飾教育を顕彰し、その教育理念と教育方針を後年に伝える目的で

同氏の遺産により上田安子記念館(館長:上田太郎)を西宮市に建立、同氏の遺品や勲5等宝冠章を初めとする表彰多数、同氏デザイン制作の衣裳多数、及び、クリスチャン・デイオール(仏)からの参考品を展示し、地域の服飾、デザインや関連分野に携わる方々に広く役立つことを期待し、開館日(毎週土曜日)を設け一般公開している。地域の文化教養の涵養に資するための「殿山町文化サロン」を継続して定期的に行っている。文化人を招聘して教養講座などを開催している。

#### **10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか**

先のイベント等へ参加し、地域との交流をはかっている。

別紙)

各学科報告

キャラクターコンテンツ学科

## ■ 自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

### 1. 学科の教育目標

キャラクターデザイン、マンガ、アニメーション、ゲーム分野で、基礎力の蓄積と、魅力ある作品作りのためのキャラクター創造を基本として、技術力の向上と体系的な専門的ノウハウの習得、海外の学校との連携を行い国際的なコミュニケーションに対応できる人材を育成する。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画。

学科の基本として、キャラクターの創造を通してキャラクターデザイン、マンガ、アニメーション、ゲーム各分野における専門的技術の習得と、将来に向けて表現技術の可能性の追求。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

#### (1) 教育理念・目的・人材育成像

【課題】希望分野の高度な専門知識、技術力の向上の基に、より広い見識を持ち関連分野での可能な人材の育成。

【改善策】各教科担当が目的意識を明確にとらえ、積極的に新しい技術や考え方を学び、学生の創作活動全般に関する意欲の向上を図る。

#### (2) 教育活動

【課題】1年次は総合的な基礎力の向上に努める。2年次で各専攻に分かれるため1年次の日常の授業では教科学習の意義や目標設定が不明確になる傾向がある。

【改善策】1年次の授業においては、各担当教員が連携を取り、次年度に向けた学習意欲を持たせる。特に各専門分野の授業内容の強化と、学校や企業とのワークショップをすすめていく。

#### (3) 学修成果

【課題】学生の卒業後の進路についてはより詳細に検討し、各々の希望の職種につけるよう支援体制を作る。また、マンガ、アニメーション、ゲーム、それぞれの分野で就職を重視しなければいけないが、作家活動の支援等、専攻ごとに事情が異なる現状では学科全体としての対応は難しい。

【改善策】専門分野の教員、講師とキャリアサポートセンターと連携して分野ごとのキャリア教育についてカリキュラムの中で取り入れていく。

#### (4)学生支援

【課題】留学生(多国籍)の増加による進捗状況の格差の是正、それに留学生のドロップアウトへの対応。日本語の理解力が大きい問題だと思われる。

【改善策】授業において講義内容の見直しや日本語の説明について各教科と教員の意識を改善する。ワークショップやセミナーを活用し、将来に対する具体的な目標をイメージさせることで学びの意欲向上につなげる。

#### (5)教育環境

【課題】各分野のデジタル化、web 戦略、グローバル化に対する対応が不足。

【改善策】授業のスマート化、海外向け情報発信を積極的に進めていく。

#### (6)社会貢献・地域貢献

【課題】現在、明確な対応ができていない。

【改善策】本校の持つノウハウを活かして、他の学校や地域との連携を進めていかなければならない。

#### (7)国際交流

【課題】中国の大学生を中心に日本語を学ぶ大学生の短期留学を受入れ、日本語とともに本校の専門分野の授業を行っている。

キャラクターコンテンツ学科では、海外研修旅行としてフランス AUTOGRAF 大学でワークショップを行なった。また、本校でも AUTOGRAF の学生を受け入れ、ワークショップを行なっている。タレント学科も海外研修旅行を実施し、パリ地方音楽院、ICOM 等の学校でワークショップを行なっている。また、中国の大学とも連携(6校と提携している)を強化し、交換授業等学習効果につなげていくことを目指している。

#### 4.評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

今年度は大幅なカリキュラムの見直しを行った。特にキャラクターデザイン、マンガ、アニメーション、ゲーム各分野の進路に関する調査を行い、今後需要が見込まれる技術や知識をカリキュラムに反映させていく。

## タレント学科

### ■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

#### 1. 学科の教育目標

表現者として必要な基礎技術、演技力、表現力等を修得し、人々に感動を与えることのできるタレント・俳優を育成する。また社会人としての礼儀、教養等、社会への適応能力を身に付けることを目指す。

#### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

発表の場を多く設け、自らの技術力を確認することで、更なる成長へと導く。視野を広げ自らの可能性にチャレンジする積極性を養う。

#### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

##### (1) 教育理念・目的・人材育成像

【課題】作品作りに於けるチームワークの大切さを学ばせる。

【改善策】公に発表することを目的とした作品(芝居、アフレコ、歌等全ての分野で)を公開することで、他者とともに動くことの難しさと楽しさを実感させる。

【特記事項】企業との連携でアフレコ参加の機会も数多く設定し、実績を上げている。

##### (2)教育活動

【課題】タレント(声優、役者等)としてのクオリティを高めるためには授業内容の充実が重要である。

【改善策】教員、講師間の連携を深め、授業内容や学生たちのレベル・方向性等の情報を共有し、授業内容のレベルアップを行う。

【特記事項】授業終了後教員、講師はタレント学科共通の日誌を付け、授業内容や学生たちの様子を共有している。

##### (3)学習成果

【課題】学習成果は発表することでより充実したものになる。よって、発表に向けての練習は目標と緊張を伴い、多くの成果を期待する。

【改善策】学内行事での発表において、講師の協力を得て舞台出演やアフレコ参加の機会を増やし、後日、その映像を見ての確認・反省等を行うことでよりいっそうの成果を上げることができる。

【特記事項】特になし

#### (4)学生支援

【課題】卒業後の学生の希望を把握し、本人も希望する進路に導く。

【改善策】今年度が最後となるが、芸能プロダクション・声優プロダクションの学内オーディションを開催。また学外オーディションのフォローやオーディション用のプロフィール・ボイスサンプルを学内で作成し、全面的にバックアップする。

【特記事項】特になし。

#### (5)教育環境

【課題】学内設備をもっと有効に使用できる環境を作る。

【改善策】教員だけではなく学生たちに、ステージの照明、録音スタジオ等の設備等を使いこなす技術を身につけさせ、学生が自由に機械を使用できる環境を作る。

【特記事項】特になし

#### (6)社会貢献・地域貢献

【課題】地域のイベント等に積極的に参加し、地域の活性化に協力する。

【改善策】本校の所在する住之江区の施設 ATC のイベントに積極的に参加している。

【特記事項】特になし

#### (7)国際交流

【課題】言葉の壁を乗り越えて、外国でも堂々と自分を表現できる人材を育成する。

【改善策】言葉の壁を乗り越えるのは言語力だけではない。多くの発表経験を通して、自信を持ち全身を使って自分を表現できる力を養うことが重要である。

【特記事項】特になし

#### 4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

現在、タレントには多くの要素が求められている。声優・ダンス・歌手・役者等それぞれの分野の要素が重なって初めてエンタテイナーとして認められる。したがって、今後タレント学科が目指すものは、専門性を重視した上でより広い視野での教育を考えるという事である。求められるエンタテイナーを育成に取り組んでいく。